

8. 広報活動

1. はじめに

大型放射光施設 SPring-8 が学術の発展や産業の振興にいかに関与しているかについて国民の理解を得るとともに、放射光利用者の裾野の拡大に資するため、広報活動を通じた的確な情報発信は極めて重要である。

2012年度に引き続き、放射光利用の研究成果、利用者の支援活動、施設の運転状況、各種イベント開催など、SPring-8 における活動情報の分かりやすく、タイムリーな発信に努めた。

2. マスメディアへの情報発信

2-1 プレス発表

SPring-8 を利用した研究成果や施設公開といったイベント情報などを東京、大阪及び地元兵庫のマスメディアに対して発信した。2013年度における理研と JASRI を合わせた発表件数は 31 件であった。

2-2 取材対応

SPring-8 で行われる、新聞、テレビ、雑誌といったマスメディアによる取材対応を行った。電話での取材を含め、2013年度の取材件数は 37 件を数え、その内訳は、新聞 19 件、雑誌や社内報など出版物・PR 動画 11 件、テレビ・ラジオ 7 件であった。

ヘアケア製品を開発販売している SPring-8 利用企業が仲介役となって、ヘアケア雑誌出版社による取材があった他、JASRI 利用研究促進部門ナノフォレンジック・サイエンスグループの活動に対する取材があった。

3. 広報資料の制作

広報資料として、SPring-8 NEWS (和文)、SPring-8 パンフレット (一般向け (和文・英文)、詳細版 (和文))、SPring-8 産業利用成果集 (和文・英文)、SPring-8 学術成果集 (和文・英文)、SPring-8 関連の写真、研究成果などの各種パネルなどを制作した。

SPring-8 NEWS は、SPring-8 の活動を広く知ってもらい、研究成果などを分かりやすく紹介するとともに新規利用者開拓を目的とする隔月誌である。2013年度も奇数月毎に年 6 回発行した (図 1)。

SPring-8 産業利用成果集 (2013 年度版) は、JASRI 理事長の交代により巻頭言ほか統計データなどを更新して 2013 年度版冊子及び CD 版、オンライン版 (PDF 版) を発行した (和文・英文)。2009 年度に編纂委員会の下に電



図 1 SPring-8 NEWS 誌 No.73 の表紙

子ファイルとして編纂した SPring-8 学術成果集 (和文・英文) においても、理事長の巻頭言ほか統計データなどを更新し、冊子と CD 版、オンライン版 (HTML 版及び PDF 版) を発行した。SPring-8 では、国際結晶学会 (IUCr) が年 6 回発行する論文誌「Journal of Synchrotron Radiation」に SPring-8 の施設情報を 2004 年以来毎号掲載し、SPring-8 の広報活動のみならず放射光科学の普及に貢献している。2013 年度は、SPring-8 で得られた研究成果 6 件 (生命科学 4 件、材料科学 2 件) を取り上げた。

4. ホームページの管理運営

SPring-8 において、ホームページを活用して利用者支援から一般向け広報に至るまで、幅広い情報を提供している。2013 年度は、SPring-8 WWW 編集委員会を 3 回、メール審議を 2 回実施して SPring-8 ホームページに関する各種の検討を行い、コンテンツの充実等を図った。研究成果の一覧表示については、プログラムを改修し表示速度の高速化を行った。また、トップページには、視覚的にインパクトがあり、魅力的な画面構成とするための検討を行い、ページ上部に画像をスライド表示させる仕組みを採用した。

一般向けコーナー「光のひろば」については、内容をより充実し、広く一般の方々に対し「SPring-8 がどのような施設で、どのように活用されているのか」を理解していただけるよう、コンテンツの整備を継続して行った。研究成果を紹介するコーナーでは、スライダーを採用して最新のトピックスが目立つようにした。また、研究成果を分野毎に整理し直すとともに、分野毎にコンテンツが一望でき

るよう閲覧者の利便性の向上を図った。「SPring-8研究者インタビューシリーズ」では、SPring-8を利用して最先端の研究分野で優れた成果を創出している研究者の言葉や素顔を伝える動画をYouTubeを活用して掲載している(図2)。2013年度には、

大下 祥雄	豊田工業大学 大学院工学研究科 教授
高原 淳	九州大学 先端物質化学研究所 教授
高橋 嘉夫	広島大学 大学院理学研究科 地球惑星システム学専攻 教授
櫻井 和朗	北九州市立大学 環境生命工学科 教授
彦坂 正道	広島大学 特任教授
飯原 順次	住友電気工業 (株)
	解析技術研究センター 主幹

の6人の研究者に出演していただいた。

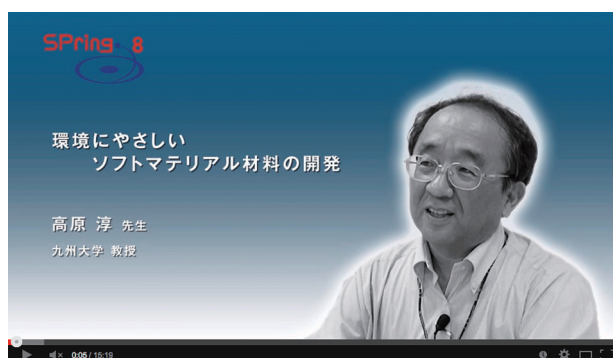


図2 SPring-8 ホームページ一般向けコーナー「光のひろば」の「研究者インタビューシリーズ」。SPring-8を利用して最先端の研究分野で優れた成果を創出している研究者の言葉や素顔を伝える動画をYouTubeを活用して掲載。

SNS (social networking service) を活用した広報展開についての検討を行い、SPring-8からの情報発信力を向上させるため、研究成果及び学術会合ページにFacebook、Twitter ボタンを追加し運用を開始した。2013年度のSPring-8 ホームページアクセス数は、ユーザーの延べ訪問回数であるセッション数が910,728件、ユーザーがページを閲覧した回数であるページビュー数が2,611,657件であった。これらを1日あたりに換算するとそれぞれ2,495件、7,155件となる(2012年度は1日あたりそれぞれ2,326件、7,149件)。SPring-8 ホームページ主要コンテンツの更新件数は、日本語ページ及び英語ページ合わせて512件(月平均42件)であった。「プレスリリース・トピックス」欄に掲載されたSPring-8の研究成果に関わるプレス発表記事は60件であった。

5. 見学者の受け入れ

SPring-8及びSACLAを2時間で案内する予約見学ツアーを標準としつつ、申込者からの要望を踏まえ、それぞれに最適な案内・説明を行うよう努めた。例えば、Super

Science High School (SSH) 指定高校の生徒や大学生の見学対応に際して、展示室において既に整備した可搬型の「蛍光X線分析装置」や「放電管模型」を活用した蛍光X線分析実験デモを行い、SPring-8に対する理解・増進に努めた。

2013年度の見学受け入れ数は、施設公開を除いて11,318人であった。これまでの来訪者の推移を図3に示す。

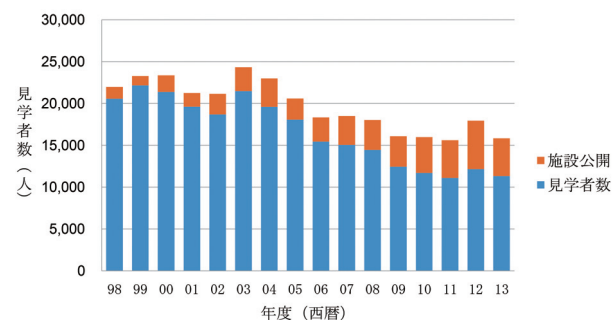


図3 見学者数の年次推移

6. 広報行事

6-1 施設公開

2013年4月27日(土)、科学技術週間にちなんで、21回目となるSPring-8施設公開を理研とJASRIの共催で、キャンパス内の各機関の協力を得て開催した。天候は晴れ、4,518人ももの来場者で大いに盛り上がった。X線自由電子レーザー施設(SACLA)の公開の他に、SACLA実験研究棟大会議室での科学講演会(「人工的にパラジウムは造れるのか」、「SACLAで拓く新しい構造研究」、「レアメタルの低環境負荷リサイクル技術の開発」、「高分解能CTでみる木の文化」)も好評で、SPring-8から出た成果をアピールできる良い機会となった。その他各会場では、粘土・鉱物の性質を実験などを通じて分かりやすく体験できる体験イベントコーナーを数多く設けたこともあり、これらのコーナーは特に子供たちに大人気だった(図4)。



図4 第21回SPring-8施設公開

6-2 サマー・サイエンスキャンプ

8月5日（月）～8月8日（木）、理研播磨地区において、体験実習や研究者との交流を通して科学技術分野への理解を深めることを目的とした「サマー・サイエンスキャンプ」を開催し、全国から選ばれた高校生16名が参加した。

1日目は、開講式、オリエンテーションの後、SPring-8とSACLAの施設紹介の説明を受けた。2日目は、SPring-8とSACLAの施設見学の後、岡山大学大学院 沈 建仁教授による講演「酸素を作り出す植物の仕組み」を聴講し、午後からは3つのグループに分かれて体験実習を開始し、夕刻には交流会を行い、生徒同士や生徒と研究者が交流を深めた。3日目は前日に引き続いて体験実習とそのまとめに熱心に取り組み、最終日にはグループ毎に体験実習のまとめを発表した。

限られた時間であったが、参加した生徒達にとってこの4日間で放射光科学の最先端に触れることができ、その体験が将来の進路選択に役立つことを期待する（図5）。



図5 高校生のためのサマー・サイエンスキャンプ

6-3 出張授業

出張授業は、SPring-8の研究者などが小中高等学校に出向き、科学技術についての実験を含めた授業を行うもので、1999年度から実施している。

2013年度は、2013年7月16日（火）、兵庫県立佐用高等学校に理研の研究者が出向き、特別講座「くらしを豊かにする科学技術“生物”の不思議に向かって」を行い、同月31日（水）には、生徒達が理研播磨地区に来訪し、タンパク質構造解析等の実習を行った。また、9月6日（金）には佐用町立利神小学校にて、理研職員が出向き親子科学実験教室を実施した。

6-4 展示会・イベントへの出展

SPring-8の活動や現状・動向を紹介するため、日本放射光学会（2014年1月11日～13日、広島市）でポスター展示を行った。また、第29回ISTS国際宇宙展示会（2013年6月3日～5日、名古屋市）に兵庫県からの依頼に基づき出展し、SPring-8や放射光の理解増進に努めた。

また、青少年の科学技術への関心を高め理解増進を図るため、子ども霞が関見学デー（2013年8月7日～8日、文部科学省）（図6）に出展した。サイエンスフェアin兵庫（2014年2月2日、神戸市）（図7）では、理研（放射光科学総合研究センター、ライフサイエンス技術基盤研究センター、発生・再生科学総合研究センター、HPCI計算生命科学推進プログラム、生命システム研究センター）及び計算科学研究機構と協力体制を組み、パネル展示並びに放電管模型や可搬型蛍光X線分析装置による蛍光X線分析のデモ実験等を通して、SPring-8や放射光の理解増進に努めた。



図6 子ども霞が関見学デー（2013年8月7日～8日、文部科学省）への出展



図7 サイエンスフェア in兵庫（2014年2月2日、神戸市）への出展

7. まとめ

これまで述べたように、SPring-8における活動や放射光科学の普及・啓発に関して、種々の手段により分かりやすい情報発信に努めた。引き続き、さらに効果的・効率的でタイムリーな情報発信に取り組んで行く。

理研 放射光科学研究推進室
JASRI 利用推進部 普及啓発課